

令和４年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

ウィズコロナの状況下で、本校教育活動が一昨年度・昨年度よりも徐々に本来の在り方を取り戻しつつある中で、引き続き感染対策を踏まえながら、生徒目線の視点に立ち、得られる教育効果を大切にしながら、学校アクションプランの各重点項目及び重点課題の達成目標を設定した。

教科指導の充実と学習習慣の定着、スマホ依存の防止と環境美化、進路目標の早期設定と実現の支援・本年度全学年に導入された「スタディーサプリ」を活用した学習指導の工夫や学習改善、自主的な活動を促す組織作り・学業と部活動の両立、資格取得の充実と推進、PTA活動の活性化と学校の魅力の情報発信等々を掲げて目標の達成に努めてきたところ、どの項目においても取組状況における効果の差はあるものの、概ね昨年度と同等の結果で、評価基準のA、Bであった。

学校評議員からは、本校の教育活動に関し、忌憚のないご意見をいただくことができた。高校時代に自己管理能力を身につけることは重要。合わせて校則の遵守にも繋がる。女子生徒のリーダー登用をもっと行えば良いのではないか。生徒が望む部活動を立ち上げる課題を与えてみてはどうか。問題解決、起業精神の醸成にもなり、目先の興味ではなく将来の生き方を考える機会になる。学校側からの発進に加えて、親が学校に望む事を探ることも大切である。など、学校に対し中・長期ビジョンに立った総括的本校の在り方についての示唆をいただいた。

7 次年度へ向けての課題と方策

生徒目標「高きを求める情熱」のもと、「文武両道」を目指し学習と部活動の両立に努めるとともに、県東部を代表する総合高校として、普通科の進路意識向上を目指した特色化と、薬業科・商業科・海洋科の専門性の伝統と進化を追求し、興味あふれる高校像を広く地域に発信し、いかに中学生を魅了できるかを模索していきたい。生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、学校として学習指導及び進路指導体制を明確にし、生徒の学習意欲の向上を図り、生活面においては、生徒の社会性や規範意識を醸成し、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりを進めていきたい。

(様式5)

8 学校アクションプラン

①学習活動 ②学校生活 ③進路支援 ④特別活動 ⑤その他

令和4年度 滑川高等学校アクションプランー1ー	
重点項目	①学習活動(2)学習指導
重点課題	教科指導の充実と学習習慣の定着
現 状	・教科部会等で指導方法について話し合う時間の確保が難しいのが現状である。 ・家庭学習時間が少ない。
達成目標	① 生徒が主体的に授業に参加できるように、指導方法の改善と充実を図る。 ② 学習意識調査において、参加型授業を受けたことがあると答えた生徒の割合 75%以上 ②主体的な学習態度や家庭学習習慣を定着させ、家庭学習時間の増加を図る。 学習意識調査において、4月の家庭学習時間より9月で30%以上増加、1月で50%以上増加した普通科の生徒が50%以上
方 策	・互見授業や研究授業などの機会を活用し、教科の枠を超えて授業研究を行い、改善に努める。 ・教科部会や校内メール、科内回覧等を利用して、よりよい授業のあり方等について研究・情報共有に努める。 ・年間指導計画の観点別評価に繋がる指導法を常に工夫する。 ・学習実態調査、学習意識調査により、学習状況の実態と意識を把握するとともに、学年及び進路指導部等と連携して、学習時間確保のための対策を講ずる。 ・個に応じた指導により、希望進路への意識や自ら学ぼうという意欲を高める。 ・課題は、適切な内容・量とするため、精選する。
達成度	・6月、11月に実施した互見授業は、延べ92回行われた。また、10月末の学校訪問では、研究授業を行い、授業改善の契機となった。 ・参加型授業を受けたことがあると答えた生徒の割合は、7月55.4%、12月66.8%であった。 ・学習意識調査において、4月の家庭学習時間より40%以上増加した生徒の割合は、9月は、全体で32.0%、普通科で48.9% 12月は、全体で35.8%、普通科で49.5%であった。12月で微増している。
具体的な取組状況	・授業の内容に応じて、ICTの活用方法は様々で、教員間で有効な活用方法についての情報交換をよく行っている。 ・1学年で新学習指導要領の実施となり、各教科で部会を開催し、観点別評価について協議され、授業改善に繋がっていると考えられる。 ・生徒が自主的に学習に取り組めるように、学級担任による個別面談や、教科担当者による補習などを多く行い、サポートしている。 ・計画的に学習に取り組めるよう、定期考査までの分(約1ヶ月)の課題を提示している。
評 価	B ・教員間の授業改善の情報交換を継続する。特に、ICT活用術については、常に情報収集する必要がある。 B ・学年・学科や他の分掌と連携を密にし、授業・課題の内容について常に研究するとともに、生徒の進路意識や、学習内容に対する興味・関心を高めるための方策を検討する必要がある。
学校評議員の意見	互見授業の成果を適切に授業に反映し、生徒の授業満足度を向上させてほしい。 互見授業の成果も評価対象に入れて頂きたい。
次年度へ向けての課題	・教員研修の充実 ・主体的な学習態度及び学習習慣の定着

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和4年度 滑川高等学校アクションプランー2ー

重点項目	2学校生活 (6)生徒指導 (7)保健指導	
重点課題	・スマホ依存の防止 ・環境美化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等の長時間の利用による生活習慣や学習習慣が乱れている生徒が多くみられる。また、SNSにおける個人情報の取り扱いや不適切な書き込みなどによるトラブルが生じている。 ・環境整備に取り組む姿勢は全体的には良くなっているが、清掃開始が遅れたり、清掃活動に積極的に参加できなかつたりする生徒も見られる。 	
達成目標	① スマートフォン等の使用に関する自己管理能力の育成とインターネット上のルールやマナーの徹底を図る。 ・帰宅後のスマートフォン等の1日の使用時間が3時間以内の生徒の割合70%	② 境整備、美化活動を習慣化するための環境美化委員会を中心とした自主的な活動を図る。 ・年間8回 (各学期の美化週間、5月・10月の中庭花植え、7、8月の除草や水遣り、8、12月の長期休業中の部活動におけるトイレ更衣室の掃除など)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自発的な意識づけを行うために風紀委員や生徒会による注意喚起を行う。 ・適切な利用について保護者と連携して、家庭でのルールづくりを徹底させる。 ・研修会等を開催し、ネットに関わるトラブルの発生を未然に防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間を学期に1回設定し、環境美化委員会を中心として、外清掃を含む清掃活動の強化を図る。 ・日常的に清掃を中心とした環境美化において全教職員でさらに粘り強く指導する。 ・花壇や中庭などの整備を行うことにより、情操教育の一助とする。
達成度	① 携帯電話に関する違反の件数、授業中の違反4件(昨年度9件)、授業以外での違反24件(昨年度13件) ② 帰宅後のスマートフォン等の1日の使用時間が3時間以内の生徒の割合1学年47.3%→42.1%、2学年50%→53.8%、3学年80%→73.5%、全体59.1%→55.9%(1学期→3学期) (各学年より抽出したクラスで調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員の活動は、ほぼ目標通りに行うことができた。 ・美化週間については、清掃重点箇所を環境美化委員が自ら決め、積極的に取り組んだ。 ・清掃活動も全教職員がていねいに指導することで、生徒の美化意識も高まったと感じる。 ・中庭の花植えについては、6月に環境美化委員で一斉に除草を行った後、花の植栽を行った。7・8月の水やり・除草、10月の花の植栽はリフレッシュ工事のため中庭が使用できず行わなかった。
具体的な取組状況	① ショートタイムやホームルームで各担任に携帯電話の使用ルールの周知を呼びかけてもらい、かつ、全教職員の協力を得て、昼休みに校内巡視を実施した。 ② 学期ごとに発行する「生徒指導通信」等を利用して、折に触れて生徒の意識付けを図った。 ホームルームの時間にクラスごとのスマホ使用についてのルールを決め実施するように呼びかけた。	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃の仕方について教室に掲示したり清掃担当教師が指導を行ったりした。 ・各学期の美化週間活動により生徒に清掃、環境美化の意識定着を図った。 ・ごみの分別について周知徹底を図るため、教室掲示や清掃担当教師から指導を行った。 ・情操教育の一環として中庭花壇の除草及び植栽活動を行った。

<p>評 価</p>	<p>① B ② B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の違反件数は、1年生が12件で多かった。先生方の日常的な声かけ、ルールの確認等が必要。 ・1学期以降、どの学年も使用時間が増加している。通常の生活に戻り、授業、部活動の連絡、友人との交流等が増える中、生徒の意識向上に努める必要がある。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員が中心となって学校全体として活動を行った。学校の環境美化への取り組みは、落ち着いた学習環境の形成の一助になった。 ・清掃活動は、全校生徒が積極的に取り組んだ。
<p>学校評議員の意見</p>	<p>スマホ使用による、SNS等のトラブルや不適切な書き込みによるリスクが、重大な問題を孕んでいると思われる。対策強化を願います。</p>			
<p>次年度へ向けての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のスマホ・携帯電話使用について、マナーやルールを遵守するように意識を高める。 ・家庭での使用についてのルールを決めるなど家庭との連携を十分に図る。 ・使用時間の短縮を図ると共にSNS等を通して事件やトラブルにならないように注意喚起を行う。 ・感染症予防対策として、換気や手洗い、消毒等についてはこれまで通り指導し、蔓延防止の徹底を図る。 ・清掃の仕方や開始時間について生徒と共通理解を図り、速やかに取りかかれるようにする。個人的なごみの持ち帰りや缶やペットボトル等の分別の仕方など基本的なルールの徹底を図る。 ・環境美化の更なる徹底と落ち着いた雰囲気のある学習環境の向上を図る。 			

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和3年度 滑川高等学校アクションプランー3ー

重点項目	3進路支援 (4)進路指導	
重点課題	進路目標の早期設定と実現の支援 本年度で全学年に導入された「スタディーサプリ」を活用して、指導の工夫や学習改善を行う。	
現 状	・生徒たちは進路について考える必要性を自覚してはいるが、具体的に目標を決めてから実現に向けて努力する期間が短くなりがちで生徒が少ない。	
達成目標	① 2年生の3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ② 第1志望大学への合格率(3年9月志望) ③ 成績が伸びた生徒の割合(1,2年)	④ 基礎学力の定着に向けた面談の実施率 ⑤ 希望する職種に就職が内定する生徒の割合
	① 80%以上 ② 60%以上 ③ 60%以上	④ 100% ⑤ 100%
方 策	・面接指導を通して進路目標を徐々に具体化させる。 ・進路講話や出前授業、研修旅行、大学訪問などの行事を充実させ、進路について考えるきっかけとする。 ・校内テストや外部模試の結果を基に自分の学力を把握させ、一層の努力を促す。 ・オープンキャンパスへの積極的参加を促すため、面接指導、保護者会等とおして参加する重要性を周知・認識させる。	・学校生活の様々な場面において礼儀やコミュニケーション能力が身に付くよう指導を行う。 ・生徒が自己の能力や適性を知り、どのような職種・企業でそれらを発揮できるのか考えることができる情報・機会を与える。 ・生徒の能力と適性に応じた個別指導を行う。 ・就職支援アドバイザーとの連絡を密にし、就職内定のための支援を行う。
達成度	① 普通科 100% 薬業科 97.4% 商業科 100% 海洋科 100% ② 私立の大学・短大の推薦はほぼ100% 国公立推薦は50%(30名中15名合格) ③ 1年→2年では29.5%。2年→3年では43.1%だった。	④ 各学期に設定されている面接週間だけでなく、日々の昼休みや放課後の時間を利用して、担任は粘り強く面談していた。 ⑤ 100%(65名の就職希望者の内一般企業65名は全員内定。公務員希望者1名が現在も受験中。
具体的な取組状況	・昨年度はオンラインで実施した進路学習や職場の先輩と語る会は、今年度は対面形式で実施することができた。 ・進路目標を確定させるために粘り強く面接を行い話し合った。また、その実現に向けて実力を養成するだけでなく、推薦入試や総合型選抜を有効に活用するなど努力した。	・昨年度はコロナ禍で中止となった2学年の研修旅行も、規模を縮小してではあるが、今年度は宿泊を伴って実施することができた。 ・応募前職場見学に積極的に参加させた。
評 価	① A ・進路未定者は確実に減少している ② B が、具体的な目標設定のために取り組みを継続させたい。また、1,2 ③ C 年生の成績上昇者を増やすための努力が今後の課題である。	④ A ・就職希望者について、一般企業は全員内定をもらっているが、現在も公務員希望者が受験中である。 ⑤ A
学校評議員の意見	大学進学志望校は可能な限り早くし、受験科目の見極め、授業を受ける心構えに備えてほしい。大学卒業後の生き方についても面談で指導していく必要がある。	
次年度へ向けての課題	・社会が求める人材の視点を取り入れながら、生徒の進路実現を支援する。また、地域の要望に応じた人材育成に力を入れる。 ・生徒の段階に応じた適切な情報提供と面接指導により、進路目標を具体化させる。	・本校の特色、各学科の取り組みや学習内容を積極的に地域社会に発信していきたい。 ・生徒各自がしっかりと納得できる進路目標の達成に向けて、積極的に支援していきたい ・「スタディーサプリ」は次年度も継続し、その活用について検証していきたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった) おお

令和4年度 滑川高等学校アクションプランー4ー

重点項目	④特別活動 (5)特別活動	
重点課題	自主的な活動を促す組織作りと学業と部活動の両立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を聞いて正しく行動をとることのできる生徒は多いが、自らがリーダーとなって責任を果たそうとする生徒が、まだまだ少ない。 ・学校行事には熱心に取り組む生徒は多い。しかし、与えられた活動に乗るだけで、自ら改善点を考え向上させようと関心を持ち変化をつける生徒が少ない。 ・部活動は全員加入制を採用しており、高い目標を持って熱心に取り組む生徒が多い。 ・学習と部活動の両立を図るための指導の工夫が十分といえない。 	
達成目標	①学校行事やホームルーム、生徒会活動等において役割や責任を持ち、積極的に関わることができたと感じる生徒の割合	②学習との両立を目指して、部活動の内容や時間を工夫し、充実感を持った生徒割合
	・80%以上	・80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事や各種取り組みにおいて、生徒が主体的に活動できるよう動機付けをする。 ・組織や役割分担を明確にすることで、リーダーを育てると共に、互いに連携し支援し合えるように指導する。 ・各クラスに学級長を配置し、生徒議会などを通してクラスの意見を吸い上げ、学校全体で行事や生徒会活動に関わりあえる組織作りを意識させる。 ・先を見通したHR計画、またテーマの設定や討議資料の作成、事前研究などの準備をすすめる、その反省をする。 ・生徒自らが学校行事・生徒会活動について、企画・アイデアを発案できるムードを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の目標を明確にし、その達成に向けて計画的に取り組む。 ・積極的に休養日を設け、活動にメリハリを付ける。 ・部活の開始前、終了後の指導を強化し、家庭学習への取り組みについても指導する。 ・部活動指導員やスポーツエキスパートを活用し、教員の負担を軽減させながらも部活動の活性化を図る。 ・生徒会・学級長や部活動代表者を集め携帯電話のマナーや使用について、共通理解を深めるように指導する。 ・担任以外の部活動顧問も面談を行い、高校生活の充実、進路実現、「滑川高校生らしい(進学・就職)究極の文武両道」を目指し、指導する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果、学校行事に積極的に参加した生徒は「体育大会」が78.7%、「文化部発表会や芸術鑑賞会」が85.5%「生徒会・委員会・学級の仕事に積極的に参加した生徒」が79.7%と目標には達していないが、92.1%の生徒が学校行事や部活動の際に感染対策を行ったり意識したりして参加できた。 ・リーダーとしての貢献度を感じる生徒の割合は44.9%に止まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果、77.1%が「学習と部活動を両立させるよう努力している」と答え、昨年(80.3%)より下回った。 ・87.3%以上が部活後に速やかに下校できていると答え、昨年(83.4%)より上回った。「すき間時間」を利用して学習していると答えた生徒は64.8%となり昨年(71.9%)より下回った。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や、文化部発表会、学校PR活動などを通して学科、委員会、文化部等の成果を発表できる機会を設けた。 ・文化部発表会では、文化部、各科、1・2学年、図書委員、生徒会の代表生徒が中心となって準備を進めた。 ・体育大会では、団長、応援団長、マスコット責任者が中心となり、応援、マスコット準備に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間の確保に対して、運動部での意識が高まりつつある。 ・勉強会を実施する部活動が出てきた。 ・欠点科目保持者には、部の顧問からも指導していただいた。 ・3年生の進路決定のための、面接指導は、部の顧問にも協力していただいた。
評 価	B <ul style="list-style-type: none"> ・自分が中心となって活動できたと感じる生徒の割合は昨年(43.5%)よりやや増えたが、受動的に行事などに参加している生徒の方が多い。 ・清掃、係活動などで役割を与え、実績を評価していくことによって生徒の成長につながった。 ・女子生徒がリーダーシップをとり、体育大会などの中心的役割を果たすようになった。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・部活後に速やかに下校できている生徒が増えて、よい傾向である。 ・速やかな下校は意識できてきたが、その分浮いた時間が、学習時間に回されていない。 ・通学の電車内での時間、休み時間、早めに登校して教室で過ごす時間など、隙間時間の活用が生かされていない。

<p>学校評議員 の意見</p>	<p>各部活動の活躍は素晴らしい。教員の業務時間確保と生徒の能力向上の為にも、一層の外部講師の活用を期待する。</p>	
<p>次年度へ 向けての 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・学科と連携をとり、行事の活性化を図る。 ・学年・学科と連携をとり、多くの生徒がリーダーシップをとれるよう、共通理解を図る。 ・生徒の意見を取り入れ、さらに積極的に参加しやすい行事に工夫・改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員と生徒が力を合わせて、文武両道の実現を目指していく。 ・勉強と部活の目標・目的を明確にし、時間活用の工夫・改善を促す。 ・活動方針、計画などを話し合い、自主的な部活動運営となるよう指導する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

重点項目	1 学習活動 3進路支援 (8)(9)(10)専門学科指導		
	< 薬業科 >	< 商業科 >	< 海洋科 >
重点課題	資格取得の充実	資格取得（全商）の充実	① 水産関連等の資格・検定取得の推進 ② 放課後アクティブラーニングの活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得が生徒の学習意欲を引き出している。 部活動と学業の両立を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 検定試験の内容が新課程になって変更され、難易度も高くなっており、合格者数が心配される。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な教科の学力不足・各種検定・資格試験の合格者数が伸び悩んでいる。 恒常的に家庭学習時間の不足が認められる。学力向上に費やす時間や意識が薄れている。 環境活動発表や魚食振興のための外部との協働に海洋クラブが活躍する状況にある。
達成目標	①学年ごとの危険物乙種第4類取得者、危険物乙種全類取得者、危険物以外の資格検定に取り組む。 ・危険物乙種第4類 1学年80% 2学年90% ・危険物乙種全類または甲種 2学年50%、3学年80% ・甲種と登録販売者合格者の合計で10名以上を目指す。 ・品質管理検定の合格者増。	① 新課程の簿記、情報処理を重点科目として、検定試験の合格者数。 ② 3年生は3種目以上1級取得者の人数。 ① 2級で90%以上 ② 70%以上	・水産関連等の資格・検定取得数の向上 ・マリンマイスター申請者率の向上（全体の底上げ） ・海洋クラブ活動の積極参加を昨年比と比較し、質や量を検討 ・1人年間3つ以上 ・申請率85%、プラチナ・ゴールドが申請者の35%以上 ・昨年比で質・量を比較
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 危険物乙種全類または甲種の取得を目指し、学力補充を支援する。 品質管理検定に取り組む。 その他の資格（P検、英検、漢検など）で基礎学力を充実させるよう意識付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの効果的な活用。 観点別評価を効果的に活用し、生徒の主体的学習を促す。 放課後補習の実施。 生徒個々の学習状況を担当者で把握。 3年の課題研究に簿記検定試験コースを設け、指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通教科とは別に基礎学力の補充を目的とした問題集を課題にし、意識の向上を促す。 資格への意欲向上、取得を目指し、個別対応を充実させる。 意欲的な生徒への参加を促し、継続的な支援を行う。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 危険物の受験はあと1回を残しているが、目標には届いていない。 甲種2名合格、登録販売者1名合格。 品質管理検定は9月に4級を受験済み。3月に3級に挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月の情報処理検定1年生36名受験のうち35名が合格、1月の簿記検定1年生40名受験のうち39名が合格した。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の合計取得数は441（平均11.3個）。コロナ禍で未受験資格もあった中で健闘。 マリンマイスターは申請率は過去最高の89.7%（85.4%）であった。内訳はプラチナ5(1)名、ゴールド11(11)名、シルバー19(23)名となった。申請者に占めるプラチナ・ゴールドの割合は45.7%（34.3%）と増加した（カッコ内は昨年度）。 実習では学科独自の評価法、自己評価シートの運用が定着した。 近年県内で漁獲が増えている暖水系魚シイラを巡る調査研究活動が全国大会に出場する10校に選出された（全54校）。

<p>具体的な 取組状況</p>	<p>危険物は朝補習を行い、合格率向上を目指している。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・放課後補習の実施。 ・個別指導の充実。 ・教員間での問題の分析。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格受験の斡旋、積極的な動機付け ・個別指導の充実 ・「対話的、主体的で深い学び」に即した実習を運用し、個別アンケートを実施。 ・放課後 AL が功を奏し全国大会に2年連続出場。他の活動も昨年並みで実施。
<p>評 価</p>	<p>B</p>	<p>最終的な結果は3月にするが、おおむね達成と考えている。</p>	<p>A</p> <p>①について、簿記検定2級、情報処理検定ともに合格率が97%と目標を達成した。 ②について、約90%が取得し、目標を達成した。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均10個の目標は達成し、マイスター申請率は目標達成した。 ・アンケートはスマホでの回答も可能で、教員側の時短・省力化に繋がる。 ・放課後 AL は、地域連携が鍵となる。シイラ研究、ANA ホテルとのコラボは継続させる。地域イベントでの缶詰販売は好評。
<p>学校評議委員 の意見</p>	<p>各専門学科ともに、独自の資格取得やメディアへの発表を行い、地域にアピールしている。更なる上級資格を取得するための取り組みや、チャレンジが必要だと考える。</p>			
<p>次年度に 向けての 課 題</p>	<p>自主的に学ぶことができるように働きかける。</p>		<p>①年間指導計画を次年度に向けて再検討する。 ②3年生の3学期まで、気を緩めず、目標を持って学習するよう指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な選択科目の魅力を発信し、個々の資質・能力に応じた学習を推進し、希望に添った進路実現を目指す。 ・実習では主体的に取り組める環境作りに努め、「深い学び」につながる指導を考案する。 ・マリンマイスター取得者数の増加を目指す。高度な資格への挑戦を促す。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和4年度 滑川高等学校アクションプラン6-1

重点項目	5 その他 (12)地域との連携・協力	
重点課題	PTA活動の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会について、第1回90%、第2回77%、第3回64%、第4回74%の参加率であった。 ・PTAだよりを年3回発行している。 ・滑川高校ホームページやリアルタイム共有システムによる情報発信を行っている。ホームページの更新がやや停滞していることにより、学校の魅力を伝えきれていないところもある。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会の高い参加率の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページの更新 ②リアルタイム共有システムへの登録
	<ul style="list-style-type: none"> ・70パーセント 	<ul style="list-style-type: none"> ①迅速な情報発信と内容の充実 ②全学年保護者登録100パーセント
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAだよりなどを通して、PTA活動への関心を高め、参加を促す。 ・役員会の案内を早めに配布し、出欠確認を行う。 ・ホームページにPTA活動の様子をこまめにアップし、活動への理解・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報活用委員に年間の学校行事を前もって伝えることで迅速な発信に努める。また学年通信などの学年からの連絡も必要に応じて行い学校としての魅力を発信していく。 ・保護者への改善アンケートも行いながら、未登録者への呼びかけを随時行っていく。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回67.7%、第2回71.7%、第3回62.7%の参加率であった。 ・第2回役員会は目標の70%に達したが、第1回、第3回は達することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報活用委員にホームページ更新を随時行っていた。 ・全学年保護者の登録状況は、94パーセントで昨年度1パーセント減少した。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、第2回役員会から、学年役員も含めた、役員全員による会議に戻して実施した。 ・役員会の案内を早めに配布し、ホームページにも掲載した。 ・会合の出欠票の提出が遅れている方には、連絡をし、ほぼ全員の出欠票を回収した。 ・活動の様子をホームページに掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から設定した各部活動のページについて、今年度の大会結果を更新してもらえるよう定期的にお願した。 ・ホームページ更新を忘れていた担当の先生に、更新してもらえるようお願いした。また、更新作業が初めての先生方には丁寧に作業方法をお伝えした。
評 価	B 令和2、3年度はコロナのため学年役員は招集していなかったが、今年度は、第2回から全員を招集して実施した。参加を予定しておられたが、直前でコロナのため欠席されるなど、数値目標の達成は困難であったが、学年役員も参加しての協議は有意義であった。	B ホームページの更新方法が多少変更点もあり、戸惑われた担当者もいたかもしれないが迅速な発信に努めることができた。 リアル共有システムの登録について、未登録者への登録呼びかけを年内はできなかったが、今後連絡用紙等で促していく。
学校評議員の意見	HPの更新がまめに行われている。県外のOB・OG等に向けて、魅力的な内容充実を期待する。安全メール未登録者への働きかけを継続してほしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活動規模や内容を、可能なものからコロナ前に戻していき、PTA活動の活性化に努めたい。 ・学校HPを活用し、PTA活動の予定や活動状況を会員に知らせ、参加者が増加するよう努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度内でリアルタイム共有システムが新しいものに変更になる。そこで未登録者への登録を促していく。 ・学年通信のホームページでの発信や、薬業、商業、海洋科の紹介ページが古いので更新していきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)